

第1回 食と農林漁業の 食育優良活動表彰



農林水産省ホームページ

食と農林漁業の食育優良活動表彰 <http://www.maff.go.jp/j/syokuiku/hyousyou.html>
なぜ?なに?食育!! <http://www.maff.go.jp/j/syokuiku/index.html>



「食と農林漁業の食育優良活動表彰」とは

食文化の伝承や農林漁業体験の提供など、食育活動において、優れた実績を上げた農林漁業関係者や食品等事業者を表彰

食育活動を持続的かつ効果的に実施し、優れた実績を上げた農林漁業関係者や食品等事業者に対して、その功績を称え、これを広く国民に周知し、優れた食育活動の全国展開を促すことを目的に、平成25年度から新たに「食と農林漁業の食育優良活動表彰」を実施しました。

本表彰では、食文化の伝承や農林漁業体験機会の提供

等を通じて、農林水産業への理解や食への感謝の念の醸成を促す活動や、食生活の健全化に資する活動を対象としています。また、こうした食育活動への企業の参加を推進する観点から、農林漁業関係者等を対象とした一般部門のほかに企業部門を設けています。

受賞者

	一般部門 <small>[対象者] ①農林漁業者(法人含む)、集落営農等農業者グループ ②農林漁業関係団体(JA等)、学校、NPO法人 ③その他</small>	企業部門 <small>[対象者] 企業・事業者</small>
農林水産大臣賞	<ul style="list-style-type: none"> ●NPO法人とうもんの会(静岡県掛川市) 伝統ある地場産「さしすせそ」(砂糖・塩・酢・醤油・みそ)と地場産食材を活かした食農文化の継承と田園空間での都市農村交流 	<ul style="list-style-type: none"> ●みやぎ生活協同組合(宮城県仙台市) よりよい食の環境づくりのため、バランス良く、楽しく食べることを、子供と一緒に学ぶ農業加工調理体験や産地支援等を推進
消費・安全局長賞	<ul style="list-style-type: none"> ●京都市中央卸売市場協会(京都府京都市) 市場を拠点に、官と民の食文化ネットワークを立ち上げ、海や農地での体験活動等多様な事業を実施 ●北海道中標津農業高等学校(北海道標津郡中標津町) 計根別食育学校の実践 ～幼・小・中・高連携! 地域一体型プロジェクト～ ●森川 美保(愛知県知多郡美浜町) 発酵を中心とした日本食文化の伝承、農業体験、食農教育の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ●ハウス食品グループ本社株式会社(東京都千代田区) 家族で継続参加する、農作業を中心とした「ハウス 食と農と環境の体験教室」を実施 ●紅屋商事株式会社(青森県弘前市) 食育コミュニケーション活動による豊かな食生活の提案と地域社会への貢献活動 ●株式会社柳屋本店(静岡県焼津市) 日本の伝統食である「かつお節」「だし」のおいしさを伝える活動

(敬称略)



「第1回 食と農林漁業の食育優良活動表彰」受賞者の方々

「第1回 食と農林漁業の食育優良活動表彰」表彰式

■ 日時 平成25年11月2日(土) 13:00

■ 会場 丸ビルホール
(東京都千代田区丸の内2-4-1 丸ビル7・8階)
※「お百姓さんが教えてくれたこと 食育フォーラム2013」にて開催

■ 審査委員 (敬称略・50音順)

大竹 道茂
江戸東京・伝統野菜研究会 代表

北原 正敏
法政大学大学院 客員教授

田村 知香子
株式会社共同通信社 情報企画本部 企画部 次長

中嶋 康博(審査委員長)
東京大学大学院 農学生命科学研究科 農業・資源経済学専攻 教授

吉岡 有紀子
相模女子大学 栄養科学部 栄養教育学研究室 相模女子大学大学院 栄養科学研究科 准教授



農林水産大臣賞を受賞した「NPO法人とうもんの会」



農林水産大臣賞を受賞した「みやぎ生活協同組合」

■ 審査講評 ■ 審査委員長 中嶋 康博

本年度が第一回となる「食と農林漁業の食育優良活動表彰」に、全国の食育に取り組む、個人、団体、企業などから186件の多彩な取組について応募がありました。これらの取組について、審査委員会においては、審査基準に基づき、独自性、継続性、効果性の観点から評価を行うとともに、農林水産省からの要請を踏まえ被災地の取組にも配慮して検討しました。

一般部門では、消費者による食や農の体験を通じて農家や地域の活性化を図っているNPOを農林水産大臣賞とし、食育を通じて消費者との新たな関係を構築しようとする卸売市場、地域の小中学生などを対象としたユニークな取組を行っている農業高校、長く食文化の伝承などに取り組んでこられた個人をそれぞれ消費・安全局長賞とすることとしました。

また、今回の表彰においては、今後の食育の働きかけの

対象を社会人を含めた幅広い国民層に拡大する観点から、企業部門を設けました。表彰の対象となった企業においては、CSRとしての取組のほか、製造業や流通業などそれぞれの事業特性を活かしたすばらしい取組が行われており、被災地の生協を農林水産大臣賞とし、他の3企業については消費・安全局長賞とすることとしました。

受賞の選外となった個人、団体、企業についても今後の発展が期待できる興味深い取組が多く、本年度表彰された取組を参考としていただきながら食育活動を継続いただき、来年度も応募していただければと思います。次回の表彰ではさらに多くの応募を期待しています。

今回受賞された方々に改めて敬意を表しますとともに、心よりお祝い申し上げます。この表彰が国民や社会への食育の普及の大きな契機となることを祈念します。

NPO 法人とうもんの会 (静岡県掛川市)



伝統ある地場産「さしすせそ」(砂糖・塩・酢・醤油・みそ)と地場産食材を活かした食農文化の継承と田園空間での都市農村交流

水田のある風景を次世代へ引き継ぐため、地場産品を活用した料理や伝統的な行事食を継承。小中学生向けの農業体験や地場農産物の直売所を通じ、農業や農村の魅力を伝えています。



とうもんの会は、農のある風景をつなげるためさまざまな活動を行っています。食は農を守り農は食を育むという理念の下、地域に根差した食育に光を当て、地域の宝としていきたいと活動しています。

とうもんの風に吹かれて

農業体験・自然観察

地元特産物の農業体験を年8回開催。ツアー会社との合同企画で農と食の体験ツアーも実施しています。

食体験

地域で製造される「さしすせそ」の基本的調味料を使った味付けの食文化の定着に努めています。

朝採り市

270人からなる生産者組織「とうもんの恵みを伝える会」が出荷する地場農産物の直売所を運営しています。

文化の伝承・創造

代々伝わる行事食、地元産の米・大豆・塩を使った味噌作りなど、伝統を伝える活動を行っています。

[応募者] NPO法人とうもんの会
[事業内容] 屋根のない博物館の総合案内施設である「田園空間南遠州とうもんの里案内所」の管理・運営及び食加工体験施設、農業体験講座の開催、農産物直売所の開設等



みやぎ生活協同組合 (宮城県仙台市)



みやぎ生活協同組合の食育活動

よりよい食の環境づくりのために、安全・安心な食品をバランスよく、そして楽しく食べることを子どもと一緒に学んでいく運動を進めています。



みやぎ生活協同組合
理事長
齋藤 昭子

みやぎ生協では、生産者と組合員との交流活動を産直活動の柱にし「顔とくらしの見える産直」を産消提携団体の皆さまと一緒に進めてきております。今回の受賞は、産消提携団体・ファイブ・ア・デイ協会のご協力により受賞できたものと感謝申し上げます。ありがとうございます。

県内の産地の応援・交流、被災地を支援

メンバー(組合員)が、生産者や産地を応援するため、1970年から、産地見学や産地での体験を毎年実施し、生産者との交流を進めています。震災後は、応援計画を作成し、被災地訪問を行っています。

農業加工調理体験

大豆・お米はどのように味噌の原料になるのか、大豆とじゃがいも、かぼちゃ、にんじんなどの野菜作りも含めて、一年間産地で種から育てる体験をしています。

県内産品の学習塾

県内産の農畜水産品の生産方法、放射性物質対策などについて、生産者を招いて説明してもらう学習会を開催しています。

5 A DAY食育体験ツアー

小学生の食育を応援する「5 A DAY食育体験ツアー」をファイブ・ア・デイ協会との連携のもと、2005年から実施しています。

[応募者] みやぎ生活協同組合
[事業内容] 店舗事業・共同購入事業・文化サービス事業・住宅共済事業

ファイブ・ア・デイ協会

野菜・果物を中心としたさまざまな活動を推進する非営利団体。日本の5 A DAYは「1日5皿分(350g)以上の野菜と200gの果物を食べよう」をスローガンに食育活動を推進しています。

